明治卅六年四月二日第三種郵便物認可　毎月一回二日發行

家庭雜誌

第三卷
第四號

明治三十八年四月二日發行

簡易生活會……一
幼時の住家（西詩）……六
ピクルの製造法（緑亭主人）……七
二葉園藝（エデンの花守）……十
●草苺を作れ　●園藝の肥料　●園藝問題（六題）
我家の菜園……一六
結婚と生活問題（渚山）……一七
歐洲の奇風俗 エイプリル、フール……二〇
個人改良と社會改造……二二
誕生日の趣向（渚山）……二三
加賀の山中より……二六
北海道の田園生活（白百合）……二七
病室の訪れ……三〇
筆ついで……三二
●春や愛すべし　●記者通信　●交詢欄

由分社

東京市麹町區中六番町十番地

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

由分社取次書籍目録

（本誌の讀者に限り左の書籍の御注文には郵税不要）

家庭の新風味

堺枯川著　全六冊合本　定價壹圓　郵税八錢

▲第一冊家庭の組織　▲第二冊家庭の事務
▲第三冊家庭の文學　▲第四冊家庭の親愛
▲第五冊家庭の和樂　▲第六冊家庭の教育

家庭夜話

堺枯川編輯　全三冊合本　定價壹圓　郵税十錢

▲第一冊子孫繁昌の話（ゾラ著）
▲第二冊質素節儉の話（コールドスミス著）
▲第三冊仁慈博愛の話（ストー夫人著）
（各冊三十五錢郵税四錢）

小説 火の柱

木下尚江著　價三十五錢　郵税六錢

妾の半生涯

福田（舊姓景山）英子著　定價三十五錢　郵税六錢

青年と生存競爭

（本書に限り定價の二割引）

安藤兎毛喜著　定價二十錢　郵税二錢

●本誌定價及廣告料

一部	一ヶ月	六ヶ月	一ヶ年	全國
金六錢	金六錢	金卅二錢	金六十錢	無逓送料

廣告料――特別一頁十圓、普通一頁七圓

注意

一、本誌は毎月一回(二日)發行とす。
一、本誌の購讀料は小爲替を以て御逓送の事。
　但し郵券代用の節は五厘切手にて一割増の事。
一、購讀者は住所姓名を詳細に記して申込まれたし。又轉所の際は新舊の宿所共併せて御通知あるべし。
一、爲替振込局並に受取人は無指定にてもよろし。

明治三十八年三月廿九日印刷
明治三十八年四月二日發行

發行兼編輯人　東京府豐多摩郡千駄谷村字原宿百九十一番地　西村惠治郎

印刷人　東京市京橋區日吉町十番地　中村彌助

發行所　東京麴町區中六番町十番地　由分社

大賣捌所　上田屋　良明堂　東京堂　東海堂

印刷所　東京市京橋區日吉町十番地　近藤商店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

改良ロンテニス 二重枠ラケット一組

一號品	一二、五〇〇
二號品	一一、〇〇〇
三號品	八、八〇〇
四號品	七、四〇〇
五號品	六、七〇〇
六號品	五、七〇〇
七號小學用	四、七〇〇
八號婦人用	六、〇〇〇
九號婦人用	七、〇〇〇

ピンポン室内テニス

一號	一箱	一、二二〇
二號	同	一、五〇〇
三號	同	一、六八〇
四號	同	一、八三〇
號外	同	〇、八八〇

改良テニスネット

一號	一張	四間半	一、七五〇
二號	一張	五間半	二、二五〇
三號	一張	六間	二、四五〇
四號	一張	七間	二、九五〇

ゴム入フートボール

二號	一個	四、〇〇〇
三號	同	四、五〇〇
四號	同	五、〇〇〇
五號	同	五、五〇〇
六號	同	六、〇〇〇
七號	同	六、五〇〇
八號	同	七、〇〇〇

體操遊戲器械一切

東京神田裏神保町五

安藤商店

電話本局四百八十四

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

輕便 瓦斯の煮焼 徳用

瓦斯は燈火用の外料理其他一般の煮焼用として使用は輕便マッチ一本あれば晝夜何時にても即時に用を便じ火力加減自在にして火災の危險なく且大に手を省き費用は薪炭よりも低廉なり

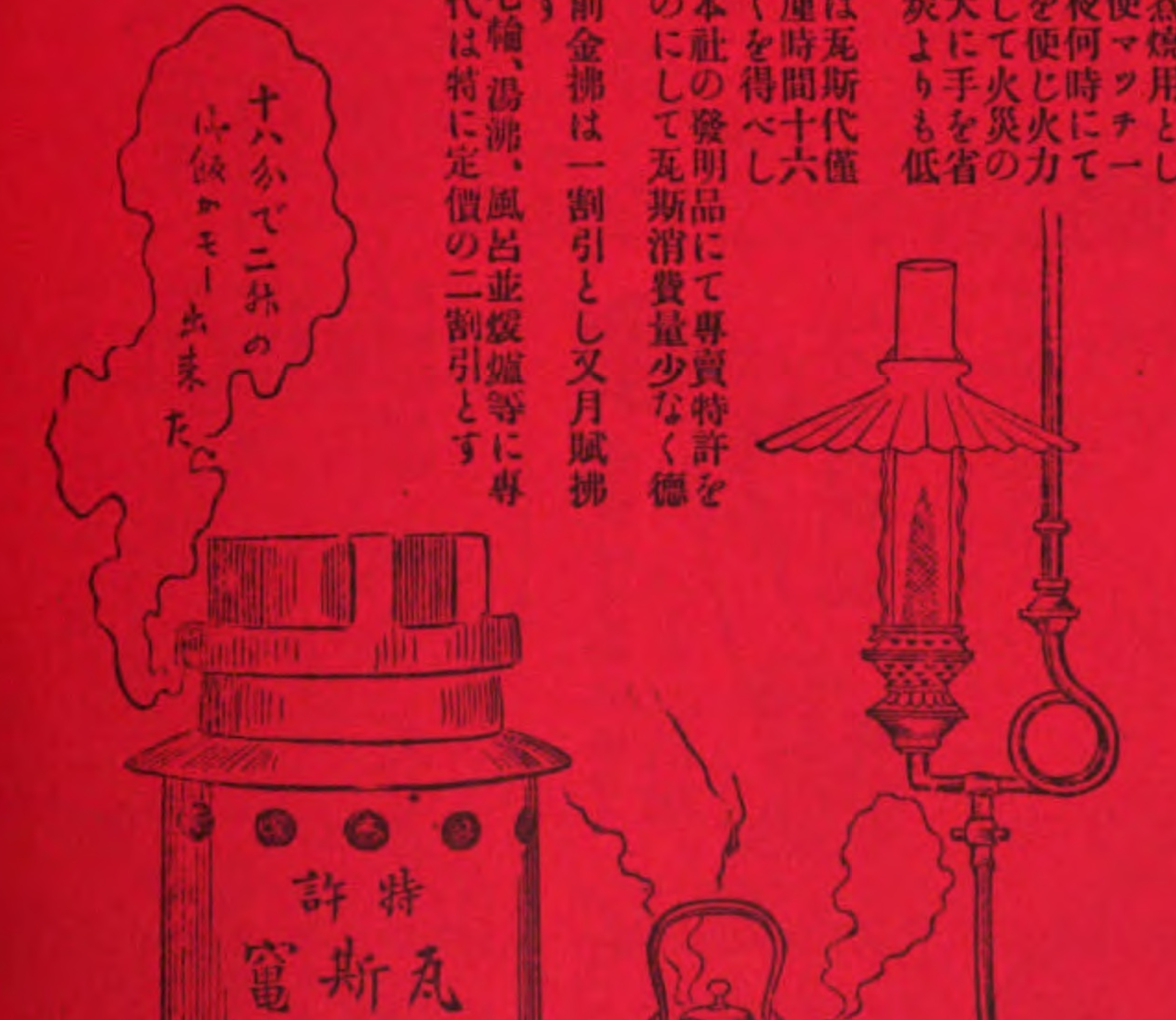
●三升の米は瓦斯代僅に一錢七厘時間十六分にて炊くを得べし

●瓦斯竈は本社の發明品にて專賣特許を得たるものにして瓦斯消費量少なく徳用便利也

●工事費は前金拂は一割引とし又月賦拂にて約定す

●臺所竈、七輪、湯沸、風呂並煖爐等に專用の瓦斯代は特に定價の二割引とす

尚各種式新器具は當社構內陳列所又は銀座陳列所さへ陳列縦覽に供居候御立寄御一覽被下度候



東京神田錦町 **東京瓦斯株式會社**

洋食のおけいこ

第七版うりだし

奥様やお孃さん達に大層御評判になつて居りますお讃物の仕方と洋食の本です

此本の評判が立ましたわけは料理に費が少くて手輕で素人でも解ると申す譯です又其上に料理の心得や御客に出し方等も書て有まして實に便な御本です（價廿四錢　郵税四錢）

つけもののおけいこ

第四版うりだし

安くて甘しく面倒なく便利此上ない御漬物これから漬物なさるに好季節本年わ同野菜でも色々な漬方をして御家内中を嬉ばせて頂戴書中わ大字假名附極易しく書て有升美本一冊廿八錢郵税四錢

東京神田小川町　寶永館

望外の高評
第三版を發行す

送迎祝賀弔祭文活法

重齋先生著●起稿以來此に半歳今回漸く成る坊間流布の赤本的のものに非ず乞ふ他書と比較し其眞否を知れ熟語に悉く解釋を附したる如き其比を見ず表紙前後例なき洋裝本織金字入頗美紙數三百十餘價卅一錢郵税六錢

東京市神田小川町●寶永館
東京市神田神保町●富山房

大和田建樹先生編

美文和歌　夕月夜

正價郵税共三十八錢▲郵劵代用無差支

待宵舍一門の歌文集なり或は春花の芳を競ふが如く或は秋草の野に咲き亂れたるが如し女學生諸君が作文詠歌の良參考たらん

婦女叢書　第一編

天眞熳爛

正價金拾參錢郵税二錢▲郵劵代用一割增

無邪氣なる小兒の言行を集めたるものなり怒れる人も泣ける人も之をよみてほゝゑまぬはなかるべし

發行所　東京牛込東五軒町御　婦女新聞社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

新刊

明浦道人著

家庭閑話

菊版美本繪入
定價金五十五錢
郵税六錢

サア、サア皆様、家庭閑話が出ました、著者はおなじみの明浦道人で、中には母親方が育兒訓練につきて是非御心得にならねばならぬ至極有益な御話と、又小供方が手を打つて笑なさるやうな御伽話が澤山に載せてあります、そこで又御親子が共に手をたゝいて御唱ひなさるべき唱歌もあります、兎に角至つて面白ひ有益な……もう手前味噌は申ませんからどうか一冊求めて御好評あらんことを切望いたします

發兌 東京々橋區尾張町三丁目 **警醒社書店**

外科皮膚病 梅毒 痔瘻 **外**科的婦人科 尿道器械的療法

診察 午前九時より十二時まで

東京 新橋際 出雲橋 **加藤病院**

院長 獨國醫學士 加藤時次郎

分院 横濱神奈川臺。火木土午後三時至六時
小田原海岸 毎月曜午前中

東京神田區駿河臺鈴木町二番地(御茶水橋畔)

電話本局八八八番 一三八五番 **東洋内科醫院**

院長 醫學士 高田畊安

診察 毎日午前但日曜日及大祭日休業、入院診斷後臨時應需、火木土曜、窮者施診〇病室增設落成

神奈川縣相州高座郡茅ヶ崎海濱 (停車場所在) **南湖院**

副院長 醫學得業士 林止

診察 院長出診土曜日午後、副院長診察毎日午前、但日曜日大祭日休業、入院診斷後臨時應需、土曜日午後施診

東京麴町區三番町三十番地 (市ヶ谷停車場附近) **高田病院施診所**

主任 醫學士 松田三彌

診察 毎日午前、但日曜大祭日休業、窮者ニ施診ノ上ハ病名及養生法ヲ示シ處方箋ヲ與フ〇往診應需

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家庭雜誌

第三巻 第四號

簡易生活會

政治的社會組織の改革と共に、今日世間に行はれて居る、煩はしい生活上の習俗を一掃したいと云ふ事は、少しく進んだ思想を持つて居る人の一様に希望して居る處である。特に、新しい家庭の組織者などの間では、淸新なる生活の趣味を多大に要求する代りに、浮華沒趣味の舊習慣には、早くから其脊を向ける居るのである。彼等の多くは、上下一般の思想が平行して進まぬ爲め、云はゞ世間の壓力に餘儀なくせられて、唯無意味に從來の形式を追つて居るに過ぎぬのだらう。

將來は此等の新進者も是非共團結的の行動を採、丁度消費組合が起つて暴利を貪る一部の商賈に對抗する如く、一に同心協力して所謂一ばならぬ。左は安養寺生の寄書であ驗した所を、飾りなく書いた實話である、次に、同感の士も亦極めて多からうと思ふ。經路は誰しも同じであらう。無論最後に添えた規約の如きに、唯安養寺生が大體の處を思ひ付く儘に舉げた斗りで、固より完全と云ふのでない。

記者はこの樣な眞率な會合が全國の方々に設けられ、それが一段發展しては、或る土地の或る番地を限りて其團體の集合地點となり、更に進んでは簡易生活村となり、簡易生活町となり、かくして、社會の一隅から一隅へと、新趣味の生活法を傳播させて、徐々に當初を目的を遂せしめたいものである。

『家人の想ひは高く、生活は低くす可し。』とは、今より三年前の秋、予が目出度痩世帶を初めし時、家憲第四條に規定した事であつたが、愈々やつて見れば中々さう思ひ通りには行かず。家人の理想が向上せぬは未だしも、却て漸次に低くなりまさりゆくは淺ましと

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

も淺まし。然れど、是れ予等の日頃の心掛惡しきと、性來の愚なるより生じた身の錆として斷念もする。唯辛抱の出來ぬは、日毎に高くなる生活と、月毎に嵩む拂と也。而かも、是等が予等自身のする贅澤より生ずるに非ずして、慥に外部より壓迫强制せられる結果であるに至つては、玆に聊か泣言もいはずに居られぬ。
敢て人並はづれたバタ臭的生活を試みて、人の意表に出でやうとには非ず。實際無用で且つ手間のかゝることをしてゐては、月々定りのある金にて夫婦と子供が喰つて行ける譯にもあらねば、イケ好かぬ奴等と笑はゞ笑へ、背に腹は換へられぬと、家憲制定の其日より、先づ各人の爲す可きことはお互に助けを借らぬ、又貸さぬと定め、先づ其第一着として、予は朝起れば自分の寢具の始末より古靴の磨き方、腰辨當の用意に至るまで一切自分にて處理し、所謂『亭主ふところ手主義』を打破したと共に、妻は亦妻の職責の上に嚴正中立して、所謂『貴卿恐入りますが、一寸お手を』主義を全く捨てた。尤も小供は未た玩具の方付も出來ない私權享有者なれば、向ふ二年間は妻を之が全權大使に任ずる事とし、家人の責務分擔は漸くこれで定つた。

(二)

次に、近來の大英斷を以て制定したのは、來客に對する茶菓及び食事の廢止、形式的贈答品の廢棄、無用のお世辭の禁止、招待せざる客に對する食事代の請求(一汁一菜金五錢、但し何人に對しても酒を供せず。)の如きもの。同時に『煙草盆を出すのも廢しにしませう。』と妻の提出した案は、元來喫烟はせぬ予ながら、餘り極端と思つた故、これ丈は採用する事を見合せた。
斯く方策は譯も無く成立したが、偖實行といふ段になれば中々一通りの骨折に非ず。出さぬ筈のお茶が出たり、又請求せぬ筈の菓子を請求したりなどして、一度ならず二度三度、規約違反の責任問題に就き、妻と言爭ひしことも少なくなかつた。然れども、これも慣るれば次第に易く、今迄客の顏さへ見ればソレお茶よ、お菓子よと、其度毎に小使錢をはたく憂も無く、人が來れば座布團に煙草盆の空話し。主人から客に對つて『拙宅ではお茶は差上げませんから……』と、謝絶るの

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を聞いて、心中は分らねど、「其方が却て結構。」といふもあり、「それは近頃の妙案です。」といふもあり、「へ、え。」と只妙に感心して歸るものもあつた。特に幾度か言ひかねたる妻が、「失禮ですが、アノ……」と食事を共にせし友より代金徴發を決行しやうもした時は、予も思はず赤面尤ともどう云ふ譯で赤面したのか知らぬけれど）したのである。其他、當時に遡つて回想して見ると、それは數へ切れぬ程の失敗もし、失策も演じたものだが、兎にも角にも一年半ばかりは當初計畫の型だけは實行した積り、其結果として、予に客人が頻く々と詰かけて來る日でも、それが爲に妻が家事の手を煩すと云ふ廉も無く、又妻が親戚友人へ訪問する時、一々贈物の相談を受くる面倒も無く、至極一家が平靜なりしのみならず、月の末の茶菓砂糖代の減少、ケチなやうなれど、寧ろ豫想外に感じたのは事實であつた。

人の嘲笑と譏謗とは覺悟の前にして、假令世間から偏人と呼ばれ、馬鹿とはやされんも、人の風評は七十五日の、社會改良はそんな弱腰で成し遂げられるものに非ずと、予が前に幾度か泣言をいふ妻を勵ましもし、又薄志弱行よと怒りもしたが、其薄志弱行はやがて予自身の頭上に降つて來た。

井戸端の惡口、役所の蔭言は雪の日の豆腐屋の聲より繁く、友の訪ね來るは反對に甚だ尠し。親類縁者の足も段々と遠くなり、祝儀不祝儀とんとこちらへは無沙汰がち。果ては近所の子供どもの影さへさゝぬやうになつては、吾ながら何と無く廣き社會に、妻と二人住みの如き心地して嬉しからず。終にはモーよさうかと口まで出したことも度々あつたが、イヤ茲が辛抱のしどころと、自ら鞭ちしことも亦屢々であつた。

然るに忘れもせぬ十二月の六日、友より密告あり、曰く、「品に依ると君に「免」の字が來るかも知れぬ。」其理由はと聞けば、「餘り日頃のやり口が眞面目すぎるので……イヤ君、茶菓廢止が思はぬ所で祟つてゐるせ。」と意外千萬な話、併し今更成程と驚くも遲し。吁々男一匹！予が理想の實現のために、免職位で何の避易しましやう。さやうなら此方より潔く免職を願ひ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ましやうと、出たきは男の意氣地なれど、人多くして地位少き此國で、意氣の氣慨のといつてゐては、此夫婦立所に餓え死せねばならぬ。自己を損じてまで社會を利する恩義もあるまじ。罪は社會にあり、斷じて社會にありと大聲三呼して、家憲第四條は見ん事これよりぞ反古となりける。

往年森鷗外漁史が文藝に關與せるが爲めに、彼れが一身上の榮達に非常なる妨害を被つたことを憤慨し、鷗外漁史とは何ぞやとの一文をある新聞に公にしたる事がある。予が其出來事をこれに比較するは餘りにおこがましけれど、由來公私の區分立たず、權利と義務との分別を明瞭と立兼ねる、我國の人とはいひながら、些々たる四五錢の茶菓代一件から、累を予の公職に迄及ぼさんとするに至つては、予と雖も男泣きに泣きたくなる次第、去り乍ら、昔時からの諺にも、長いものにはまかれろ、喰はずにはゐられぬ人の身の悲しさ、之も浮世の義理といふものなるべしと觀念して、以來は『サアお上んなさい。一ツ如何です。モー時刻です、茶づけ一杯上つてゐらつしやい。』と、日曜大祭日は譯もなく人の爲めに忙しき思ひのみして居た。

世は日に增し忙しうなりゆくに、さりとは氣樂千萬なる此國の人々よ。客と見れば上れ上れを四遍も五遍もいひ、漸と謝罪るやうにして上つて貰らふと、それ煙草盆、お茶、お菓子よと下にも置かぬ取扱ひ。揚句の果は、コーヒ、牛乳、菓子は最中では相濟まじ、栗饅頭わつふる、彼家には相應也。客に向つて豚と芋の煮込とは無禮に過ぎる。慾には食前一杯の麥酒こそはしきもの也など、客の方より勝手な注文を云ふ。それが出來ぬと、彼の細君は吝嗇だ、慾深だのと、誹謗し罵詈して、終には人の米櫃までも碎きこわさねば置かぬと云ふ程の意氣込凄じい。

獨り問題は茶菓のみに止らず、何事にも此國の人は勿體をつけ、應揚にして自分も亦人にも手數面倒をかけ、三百六十五日の生活を出來得るだけ繁雜にする事斗りを考へて居る。然れば、盆暮の贈物は幾回とも知れず順繰りに廻り、それ祝儀の不祝儀の、猫が死んだ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

といつては酒を飲むだり、飲まれたり、やれ世話しいといつては人の仕事を半日も邪魔したり、手紙を書けば用事に粗にして無用に詳しく、話をすれば唯譯も無く長くてお世辭の言合ひ、箒一本借るにも嬢ちやんから坊ちやん、犬の毛色まで褒めて掛るといふ有樣、到底一年が十二月で間に合ふ次第に非ず。吁々斯の如くにして、我邦人の日常生活は益混亂復雜、面倒厄介不要領を加ふるばかり、利益は少しもあるのでない。思ふに、此狀態は上は天下の大臣どんより、下は百姓町人に至るまで、古來の慣習として戴いて來たもの故これを一朝一夕に覆し得る事は無論出來ぬ。況んや微々たる予が獨力の、如何に踏張るとも効果の上らぬは必然である。この習俗を打破するには、どうしても數多き人の力を借りねばならぬ。幸に同感の士と共に先づ一會合を組織し、東西南北相應呼して、此主義に就くならば、我等日常の生活は大に簡易に經濟的に改善する事が出來るであらう。此等の理由で今次に其大要を箇條にして、諸君の參考に供する事とする。大方の賛否を仰ぐ。

●簡易生活會規約

一、本會は吾々日常の生活を簡易にし、且つ高尚の趣味あらしむるを目的とす。

一、會員は招待せざる來客に對して茶菓食事などを出さぬ。又人よりも受けぬ事。

一、人を招待する時は、特別の場合を除くの外、先方の家人一同を招ぐ。而して、之に應接するにも亦吾家人一同でする事。

一、會員は盆暮其他一切の贈物をやりとりせぬ。但し祝儀不祝儀及び好意上の贈物は、先方に迷惑をかけぬ限りしても良い。尤も熨斗水引はあつても宜し、無くても宜し。

一、訪問は通常午後二時より四時迄とす。但し用件の時は豫め先方の都合を聞いて置く。

一、訪問する時は必ず名刺を出す。

一、差支なき訪問には家人若しくば友人をも伴れてゆく。受くる者も亦同じ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

一、服裝は手輕にして華美を避ける事。
一、言語手紙共に用事の時には平易簡明を第一とし、無趣味の常文句を使はぬ事。
一、手紙の應答は迅速に濟すべし。若し受信人に故障のある時は、其旨を發信人に通知する事。
一、適宜の日を選定し、會員の宅廻り又は公會にて茶話會講演會又は晩餐會を開く。

●小供には座らせぬ事　疊のある間は仕方がない。と云つて、見すく善き素質のある小供を「行儀よく主義」の犧牲たらしめ、飽く迄も背の低い國民に仕立てゝ仕舞ふのは惜しい。それで小供が家庭にある間も可成的學校同樣の腰掛け仕掛となし、食事の時も、勉强の時も座ると云ふ事のないやうに致したい。尙ほ高木博士の述へて居る疊非經濟論の數字を見よ。＝我國民一般に疊を用ゐるとして、四十年間の計算をすれば、其價四十三億四千九百九十一萬一千圓、若し之を板に代ゆれば、九億九千八百十四萬六千圓で濟むから、差引三十三億五千百七十六萬五千圓の剩金になる。

幼時の住家（クレーア作）

雀木の間に囀れば、野鴿は住家いとなみつ、
そよ吹く風に飛ふ木の葉、落ちては眠る草の上、
園の薔薇を訪づるゝ、小鳥の歌はふしをかし。
あゝ小天地あゝ樂土、これぞ昔の吾が住居。

虫あさるべく駒鳥は、花の叢より下り立ちつ、
屋の上高く七葉樹に、つぐみの聲のいさましや。
月は眞珠の雨のごと、光りを注ぐ「幸の家」
兒等は端居に興じつゝ、これぞ昔のわか住家。

軒端ゆがみて洞のごと、葺くや綠の苔衣、
木枯寒く吹かばふけ、内は永久春なれや。
今また木々の色深く、小蜂の花にあこがれつ、
花の紅ゐ葉のみどり、昔のいろに匂へども、
さはれ懷かしこのかみや、是で幼時の吾が住家。

「英米名家詩抄」より

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ピクルの製造法

祿亭主人

◎ピクルとは野菜又は菓物の類を酢の中に貯へたもので、之を冷肉に添へ、料理の飾物となし、ソースに味をつける等、洋食には無くてならぬもの丶一つです。ピクルは恰も藥味の如く之を適宜に用ふれば、消化を助け食慾を増すの効はあれども、其多量は消化し難く却つて胃を害するの恐れがあります。故にピクルは充分咀嚼て食ふべきものです。

◎野菜又は菓物をピクルとするには、春より秋へかけて各其出盛りの季節に採取したものを用ゐます。何れも至極新鮮なるものを選び、未熟品や腐敗に傾いたものを避けねばなりません。凡て軟かなものは生のまゝで漬け、かたきものは湯煮します。一度ゆでゝから充分乾かせば、良く酢を吸收する様になります。

◎酢、ピクルに用ふる酢は林檎酢か、或は葡萄酢が最も適當な様ですが、普通日本の酢も亦惡くはありません。元來酢と云ふものは、之を煮立たせると其香も酸味も弱くなるもので、之を煮るにも一度沸騰點に達したら、直ぐに火から下さねばなりません。但し日本の酢はピクルに使用して一種不快の風味があります故、寧ろ之を二三分間沸騰させるが宜しい。又成るべくは日本酢のみでなく、之に幾分の洋酢を交せた方が尚更結構です。酢につけた野菜類があまり軟かく成る恐のある時は、一ガロンにつき小指の頭ほどな明礬を加ふれば硬くなります。又少量の粒芥子と西洋山葵は酢に黴の來るを防ぐの効があります。

◎藥味は胡椒、蕃椒、芥子、丁子、蒜葱、生薑、姜黃、オールスパイスなどを適宜に調和し、殊更一つの藥味を強くせぬ様にします。胡瓜や茸類が葱や蒜の香に負けて、全く自己の風味を失ふ様な點は注意すべき事であります。

◎鹽水、野菜を數時間浸し、又其内に入れて煮る爲の鹽水は、大凡卵を之に入れて浮く程か、或は鹽一合、水四合の割合で作ります。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

◎器具、酢を煮るには完全な琺瑯の鍋か、又は磁製の壷を二重鍋にして用ふるが宜しい。之を攪せるにも決して金屬の物を用ゐず、木製の匙か杓子の樣なものを用ゐます。又ピクルを貯ふるには口の廣き硝子の瓶か、磁製の器に入れ、涼しくして日光の透さぬ處へ置くに限ります。

◎貯藏中ピクルが大氣に露出して乾燥する時は腐敗します故、酢の量が十分ピクルを浸して尚ほ二寸位餘りある程にせねばなりません。若も酢が弱くなつたら、其幾分を捨て別に新しき酢を煮て之を補ひます。又少しでも黴が來て腐敗しさうに思はれた時は、其酢をしぼり、一ガロンにつき一把の砂糖を加へ、之を沸騰してピクルに注げば、軈て砂糖が酸化して酢に變じ其酸味を強く致します。

◎菜豆ピクル

菜豆一升ばかり莢のまゝ線をとり、兩端をつみ、鹽湯にてさつと茹で、冷して十分水氣を取り、適宜の器に入れ、少量の蕃椒末と粒芥子及びおろしたる西洋山葵を加へ、上から強き酢をかける。

◎火焔菜のピクル

ビートを少しも外皮に毀つけぬ樣、又細き鬚根をむしり取らぬ樣に洗ひ、熱湯に投じて一時間半程煮、それよりあげて之を冷し、後ち皮をむきて二分位の厚さに切り置き。別に酢八合にオールスパイスと粒胡椒各一大匙を加へて一分間煮立たせ、充分冷てからビートの上へかける。これは一週間位してからたべられます。

洋種人參のピクルも之と同じ法で出來ますが、其味は至極結構なものです。

◎セルリ・ピクル

球菜とセルリの白き所を細かく刻んだものを大凡そ五合宛鍋に入れ、之に鹽一大匙、砂糖二大匙、粒芥子一大匙生薑のつぶしたもの一大匙、及び之を浸す程の酢を加へ、文火にかけて軟らかくなるまで（大凡半時間）煮、冷却して後之を適宜の器に貯藏します。

◎胡瓜のピクル（第一）

極小さき胡瓜百個を洗ひ、水氣をよくふき取りて壷

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に入れ、鹽水を沸して之に注ぎ、二十四時間の後取出してよく乾かし、更に貯藏すべき器に入れ、其上へ左の藥味と酢を煮立たせてかけます。

葱壹箇　丁子十本　芥子粒二大匙　胡椒粒一大匙

此ピクルは二週間を經てから食べられます。

○胡瓜のピクル(第二)

大さ二寸位の胡瓜をよく洗ひて乾かし、別に丁子粒、胡椒、オールスパイス及び肉桂の粗末各一小匙をよく混和し、大凡五合入の口の廣き瓶へ前の胡瓜と此藥味とを交る〲詰め、上より強き酢を注ぎ、密封して五六週間置く。

○グリーン・トマト・ピクル

未熟の蕃茄三升許りを二分の厚さに切り其間に鹽をふりかけて一夜置き、翌朝弱き酢の中にさつと熱し、冷たる時壺に入れ。別に強き酢へ砂糖一茶碗、青蕃椒五本、其外好みの藥味を加へて沸騰し、トマトの上へ注ぐ。

○桃のピクル

餘り熟し過ぎざる桃をとり、一箇につき丁子一本つゝをつき差し。別に酢一ガロンへ赤砂糖二斤を加へて沸騰し、上に浮び出づる泡をとり、二度位沸き上つた頃、桃の上に注ぎ固く蓋して置く。一週間以上を經て、其酢を取り、之を沸して又桃を漬けて置けば、それから後は長く貯藏が出來ます。

○チヤウ・チヤウ

材料として先づ左の品を調へます、

芥子粉半封度　酢　二クナート
砂　糖一茶碗　芥子粒二大匙
黑胡椒一大匙　青蕃椒二十箇
花椰菜大一箇　菜　豆一クオート
小胡瓜一コート　小球葱一コート
姜　黃一大匙(カレーの粉にてもよし)

右の内、胡瓜は二十四時間鹽水に浸し、花椰菜と菜豆と葱は各別々に少しく軟かくなるまで鹽湯にて茹で、此四種をよく混交し。別に藥味(芥子粉を除く)と酢をよく煮立たせて野菜の上に注ぎ。終りに芥子粉

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を冷酢にとき、前の混合物へ加へます。

○ミキスド・ピクル

是には殆んど總ての野菜を用ゐますが、特に適當なのは花椰菜、球菜、人參、胡瓜、菜豆、球葱等です。

先づ濃き鹽水を煮て前の野菜を投じ、一二分間沸騰させて、之を布片にあげて水氣を去り、別に

酢　二クオート　　生姜一オンス

番椒一オンス　　胡椒一オンス

を煮立たせ、熱きまゝ右の野菜の上へかけます。

以上述べたる内、チヤウ・チヤウ或はミキスド・ピクルの製法により、日本の獨活、莢豌豆、筍、牛蒡、茸類蓮根などを材料として、甚だ味よきピクルを作る事が出來ます。唯軟かきものは一寸茹で、かたきものは稍長く茹で、あまりあくの強いものは暫らく水出しをする樣な手加減は幾分かせねばなりません。

▲錆の出た料理用のナイフを磨くには、磨粉を用ふる前に、まづ其兩面を火にてよく温めなさい。

エデンの花守

わが事と鰌の逃げる田芹かな　（丈草）

二葉園藝

●草苺を作れ！

四月から葉蔭に、白い星のやうな花を開き、獨りで天眞を樂しみながら、遂にそれが紅ゐ濃き實に代るのは實に可憐の草苺であります。

草苺はあのやうな小さい莖葉でどうしてアンナに大きく、色も味も美しい實が結べるのでせう。思ふに夫は美しく而も善い心懸の人に永く〳〵、大事に親切に育られ養はれて、遂に進歩して今日の立派な實を結ぶやうになつたのであります。ですから若し我々が羸弱な彼を、手暴き野の神に托したならば、最初の如く追々小さい實を少し結ぶやうになり、唯だ無闇に同類を殖さうと例の瘠た蔓を四方へ出してはみるもの丶、俄かに愛の手を離れたものだから、雜草に憎惡られて遂にそれすら叶ぬやうな有樣に立ち至ることもあるのであります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

草苺は斯様なものですから、我々は彼の美しい果實を望むならば、先づ愛培せねばなりませぬ。それには秋九月十月頃、植付るのを定法と爲は居ますが、三四月の交、開花に先ち、急いで植付けても幾分効を奏します。栽るには整地をして肥料を埋め込み、株間を一尺か一尺二三寸にすればよいので、他に難しい世話はしなくても、唯だ雜草を除き不用の蔓などを摘み切つてやれば好いのであります。若し苗を採るのならば、斯様に植えたのを生長して蔓の出るに任せるのです。そうすると、四五月開花結實の最中から、蔓手を地に匍ひ延て、其節々より地下へは根、地上へは葉を生じ、七月頃になりますと、匍枝を節間々々で切り離しても、其根あり葉ある節が立派に獨立するやうになります。其時は既に一本の苺苗となつたのですから、切り放し根を傷めぬやう拔き取つて、別な地へ四五寸隔てに假植を爲し、薄い肥料を與へて十月頃迄充分生長さしてから本畑へ移しますと、來らん春陽の頃には累々と紅ゐの實を飾りたてるやうになります。

西洋では一人で幾十町歩の苺畑を作つて、此美しい果實をジャム、苺酒、舍利別などに用ゐ、生食は勿論料理にも頗る賞用するそうです。日本でも近頃餘程栽培されるやうになりましたのは誠に結構なことで、殊に家庭の草苺栽培は、ひとしほ趣があらうと思ひます。

(附記)△肥料として灰の類を少し宛與へるを忘れぬこと。これは實を多く需むる爲めです。

△苗は早稻田農園等方々の種子屋にあるが、すべて品種の多いものゆゑ、少し宛幾種も買つて、前記の法により苗を採ること。

△此の一種に四季草苺と云ふのがある。果實は小いが、春から秋へかけて開花結實するので重寶で可愛い。

△宿根草で何年でも榮えますか、三四ヶ年毎に新しい株に代へるのが、よいとのこと。

●園藝と肥料

(肥料の説明及施肥の目的)

肥料と申せば誰でも臭くて不潔なものと思ひ、花や

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

蔬菜や果物が、必ず彼のやうな不潔極まるものを喰はねば生長し結果せぬやうに思はれて居ります。けれど、是は思ひ違ひで、唯だ人間の取るものと其化學上の性質に於て違ふのは、口や歯や胃袋を持ぬからで、我等の食物とても植物の肥料には同じ價値があり、彼は我々が胃で消化して養分とするやうに、土の中で消化るして根から直く養分として吸ひ採る譯ですから。結句不潔な胃袋なぞを持つて居らぬ丈け清潔なのです。併し、今は人間の食物が不足なゆえ、その不用の不潔物を肥料として植物の胃袋たる土中へ與へ、その代り夫れに依つて生長した作物を採つて食べると云ふ筆法ですから、全體なら草木に感謝せねばならんので、決して不潔なものだなぞと小言を云はれた義理ではないのです。なんの人間、假令此節の所謂高位な御方だとて、朝に銀箸で美食に飽かれやうが、夕には矢張新陳代謝の役目を勉めさせねばならぬでせう。それに是を施せばこそ、吾等の好む花も果も出來るのだと思へば、どうして不潔だと云つて體裁振ることが出來ませう。

△油粕。蕓苔の實(種子)を搾つて種油を採つた粕で厚皮の土鉢形をしたもの、肥料屋では之を粉にしたのも賣て居る。これなら、臭みもヒドクなし一見砂のやうなものですから扱ひよいのであります。是れは他の肥料を混せて腐らし、基肥として畑地へ引込むか、桶などに入れ、水を加へて五六日放置き、其の上に溜り居る水を薄くして掛肥に使へば、盆栽草花などには最も佳いのであります。

△豆腐粕、米糠、酒粕、醤油粕、此の中で米糠は扱ひよくて多く効目があります。皆な油粕と同様にして使用されます。

△鯡、笹目、鯡粕、干鰮、是等も油粕と同様にして使用するのだが、高價な丈け効能多く、蔬菜類には特別によい。

△人尿及下水。人尿や家畜の尿は其儘掛け肥とするには濃厚過ぎるから、下水などを加へ、薄くして使ふと蔬菜草花の肥料には好いのであります。

△下肥。人糞のことですが、此腐敗したのは蔬菜など

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の基肥に貴ばれます。果樹にも春期根際を少し離れて當量を施すもよい。

一體人糞や尿の新鮮なのは、植物に不利益（直接すると）な尿素及び尿酸と云ふ成分を含んで居ますから、これを使ふのは成るべく腐敗したのをお用ひなさい。

△厩肥、堆肥。之は少々園藝或は農家らしい仕掛でないと使はれませぬが、果樹には最も貴ばれ、蔬菜にも基肥として使はれます。此の肥料は土地を改良して植物の育ち易いやうにするから殊に貴ばれるのです。製法は機をみて別に話さねばなりませぬが、我等のやうに、猫の額大の庭に果樹の三本や五本を植えて居るものは、周圍の雜草を除いた時、木の葉の落ちる時、藁屑の出た時に、それを樹の根へ埋めてやれば、それでもう立派に効能があります。

△臺所の殘物。一切を桶などに入れて腐敗さしたものは、下肥のやうにして使用すると、中々の効能があります。

△沼又は下水池の底土、之を乾して盆栽や花壇の作土とし、また堆肥を製造する時混ぜて使用するのです。

△燐酸肥料及び灰類。燐酸肥料と云ふのは、動物の骨を粉にしたもの、或は燐鑛と云ふ鑛石から其の成分丈けを採つて製したものですが、効方は灰類と同樣で、而も合理的の肥料であります。

一體植物の肥料として要求しますのは、主に化學上窒素、燐酸、加里の三成分ですが、前申した種々の肥料には主に窒素分を多く含み、他の燐酸や加里分が少いから之を補ふ爲めに、農學の進歩は遂に燐酸肥料を生み出したのです。

それに、肥料の調合即ち前の三つの成分を均合よく施さぬと、肥料を損し植物も立派なものに育たぬと云ふ證據は、我等は時々豆などが莖葉ばかり大きく繁り甚しきは蔓になつて、目的の花を咲かず、豆莢も結ばぬのを見るのでも分ります。それは、大豆が立派に育つには、窒素即ち飯が三椀に、燐酸たる汁が二椀、加里なる一皿の香の物が要るとしませう。そこへ我々は飯四椀へ汁一椀に香の物半皿與へますれば如何。即ち

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

汁と香の物が足らぬから、普通ならば、皆な食ふべき飯を二椀位はおかずの無いので食はずに了ふ。そうして、是の方も右と同じ理由で餘つた分は雨に流され雜草に採られて無くなる。つまり我々が植物に餘分の飯を與へて、汁と香の物をやらなかつた爲め、望むところの立派な植物を得られず、且つ二椀の飯を損したのであります。

右は少々理屈ッぽくなりましたが、農家園藝家の寶の巻であります。

尚ほ、此の理屈を應用して化學的に調合し「園藝肥料」と名付けて賣つて居ります。

●園藝問答

皆さんからの種々なお尋ねに對し、お答へすること左の通。

▲食用酸漿に就て（G、K君質問）　お尋ねの札幌興農園で賣つて居る食用酸漿の果實は、小女の弄ぶ鬼酸漿と同じ形ですが、小さくて赤くならず、黃くなつて、熟すると直ぐ落ちます。莖や葉は少々異り、且つ大に繁茂し、枝を多く出し、實を結ぶこと夥しいもので、一株能く百幾個を葉裏の邊にブラ下げます。私は此果を取分け好みまして、四五年間栽培して居ます。併し試してみますに、酒を嗜む人は餘り好まれぬやうです。兎に角御實驗を乞ふ植へるには、實生にして、苗床より他に植へ代ぬやうに仕立る方がよいと思ふ。これは私丈けの經驗です。

▲カンナの蒔き方（愛花君質問）　私も仰せのやうに、堅殼なる此種子の一方丈け磨き削りて植へたら、根丈下方へ出したが、莖葉は遂に出ずに初めに出た根も腐つたことがありました。これは全く削り所が違ッたからでありますが、兩方削る程のことはありません。また微温湯で一二日間浸したらよいとゆふ人もあります。經驗せられたし。

▲姥花と云ふこと（天琴居士質問）　老女の齒の無いのに言ひかけて、葉（齒）無し植物（姥花）、即ち梅、桃のやうに花の時葉の出て居ないものを云ふとの仰せ、面白い呼び方です。櫻の一品種にも姥櫻と云ふのがありま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

して、之と同意味から付けた名だと謂はれて居ます。一體梅や桃の花が斯樣に、葉に先つのは植物の本性ですから、仰せの如く、彼岸櫻や夏水仙に葉を一しよに出させることは、園藝の技術が如何に進んで來ましても、一朝一夕にはダメだと思ひます。先づお諦めになツたらよからうと思ふ。尙、姥花の主なるものは、梅、桃、李、杏、梨、ハダンキヨ、カナメモチ、マンサク、クロモジ、連翹、欵冬、彼岸花、夏水仙などで、櫻や海棠などのやうなのは、葉と同時に開花するので最早姥花ではありませぬ。

▲櫻桃の苗(杉山君質問)　お尋ねの苗木は大概の種子屋で賣つて居ります。一本五六錢で、植え込んで三四年經てば盛んに實を結び初めます。是を栽培になさるも矢張(一)害虫を除くこと。(二)剪定を怠らず、且つ下手にやらぬこと。(三)肥料と土質を相當に見計ふて植込むこと。の三ケ條をお守にならねばイケませぬ。

▲果物の植え塲所(葉好生君質問)　果樹は花と實、兩樣の眺めある上品なもので、仰せのやうに、庭園に植えたとて賤しく見ゆるなぞの御心配は無用だらうと思ひます。尤も古式の人は、庭木として柿、無花果、栗などを嫌ひますが、それは、自分一人で眺める小さな庭そ、大事にくして居る隱居さんの仰せらるゝこと。我々は幾千町歩の森林、幾百町歩の蔬菜園果園を、多くの人と共に我等の庭園のやうにしたく願はねばなりませぬ。

▲春蒔の球根草花(同君質問)　先づカンナ。チグリジヤ。チユーベローズなどですが三品とも寒氣霜雪には堪え得ませんから、能く注意して今月中に蒔かれよ。次にクラジオラズですが、是れは種類が多いから種々お作りになッて好きなのをお選びになればよい。それから、天竺牡丹です。是も種類の多いこと前同樣だが、カクタスと云ふ品種は近頃愛でられるやうです。

▲二葉生曰＝▲餘り時節に飛び離れた質問は後廻しに致しますからそのおつもりで……。▲二月の本欄にテナンキユスの球根は扁平いと云ひましたのは誤りで、凹凸のある不正形のものです。▲園藝家得意の時代となりました。從來の如く園藝に關する質問は何でも充分にお答へしますから、花守宛にして一葉の葉書を投じて下さい。但し其質問は可成的衆を益する底の類のものを願ひます。

我家の菜園

凰　穴　生

余が今の住居は、家を繞る東西南の三方が巾九尺程に長い畑であつて、坪數にすれば凡二十坪、其外花壇及び苗床とすべき場所が六坪程ある。昨年の九月苗床に種子を下したのは、甘藍がアーリーフイトニンタ、青羽甘藍、花椰菜の三種で、萵苣は玉萵苣、縮緬萵苣の二種、何れも昨年十一月末に第二回の移植を爲し、本月十四日に悉く東側の畑へ本植付を終つた。肥料は油糟を小賣する家がない爲め、昨年夏より腐らせてある草交りの兎の糞に、米糠を加へて元肥とした。尤も兎糞に何程の肥料成分があるかは余の未だ知らぬところであるが、兎に角、此頃の降雨もなく、寒氣も嚴しいのに係らず、朝夕米研水を濯いた結果か、葉も萎れず、美事に根付いたものらしい。早く半開の牡丹の花の樣に、結球したのを見たいと樂んで居る。

家の南側は隣りの塀で、朝の間少し日陰になるので、其半分には強健なる佛國大莢豌豆を播き、今は尺餘に伸びて、些の霜害もなく成育して居る。又他の半分には、昨年夏山東菜を作り、其跡へ植えた砂村太葱が、昨冬以來ぬた膾にも、汁の身にも、牛肉の添煮にも使ひ續けて、今一と蹟（うね）を殘つて居るばかり。今度又其跡へ夏葱を植えた。併し此夏葱は餘り賞美すべきものではないらしい。

西側の畑も竹の生垣に添て居て、夕日が少し陰になるが、夕日の陰は朝日陰ほどに作物に障りのないのは、經驗上慥かに認められる。併し一體が石多く地味も一般劣つて居るので、其半分に播いた蠶豆が、今は尺餘となつて、葉も見事深緑色を見せて肥えては居ても、多少の蚜蟲が附いて居る。そして、此頃の寒冷に係らず、此等の害蟲が益々繁殖の模樣で、此被害の恐ろしいのには余も困つて居る。次に其半部分にはマルカリツトとドクトルモルレー、此二種の草苺を植えたが、過半は根付かずに枯れ、今殘つて居るのも寒氣の爲めか、少しも成長しさうにない。其苺の苗と共に、寒活獨の苗も取寄せ、井戸の端に植えて見たが、是も今日に至つて未たに發芽しない。恐らく霜害を受けたものだらう。

序に花物も貝細工、金盞花、牡丹芥子、美人草、美女撫子、月見草の六種をば、昨年秋の彼岸に床蒔したが一本も生えなかつた。床は寒肥で作つた土を丁寧に篩つて拵へたので、床に不完全の點はなかつた積り。これは、恐らく惡種子であつたのだらう。此程早稻田農園の知人から、其内に花物の種子を送つて呉れるとの事で、どんなものが來るかと樂しんで居る。

●裏の畠

記者の寓家の裏の畑は十坪餘りあつて、主に妻の經營になつて居る。尤も畠と云つたとて、大仕掛に鋤鍬の厄介になつた譯ではなく、極めて手輕な道具で土を二三寸掘起したと云ふ迄の事。それも一面ではない。或處は短册の形の如く、或所は座蒲團を敷いた如く、或處は瓢簞形に、或處は三角形に、かく種々の形をした小さな畠が、紛糾錯雜して居るのである。

去年の夏の收穫には、胡瓜百本餘り、南瓜十數個。それに莢豌豆、さゝげ、藤豆など樣々に植えてあつたのが、相當に成効して、八百屋の拂ひに、多少の減少を見た程の勢であつた。續いて、其秋には、エデンの花守より配分して貰つた京菜、大根、の二種を蒔き、愛兒を育てるやうな意氣込で、其成育をまち構えて居た。幸にして、畠は附かず、其後至極有望に生立つて來るので喜んで居たが、丁度丈の二寸位になつた頃、不幸な事には隣家の鷄の一群に魅られ、只一日の中に可愛い小供の半以上をつゝかれて了つた。昨今、畠の彼處此所に蹂躙して、夜毎の霜雪にも見事堪え忍んだ、その萠えるやうな緑の色彩に誇つて居るのは、とりもなほさずその惡い鷄の餌となつた仲間の殘黨である。

結婚と生活問題

英國の一婦人雜誌中、「貧世帶を恐れて、結婚を拒む婦女は果して薄情なりや。」との題下に、自家の哀情を忌憚なく披瀝した一女子の書翰が載つて居た。これを譯載すること左の通り。

親愛なる記者足下よ。

妾は今深き趣味を感じつゝ一書を記者の手許に寄せます。それも、此題目を以て、吾々未婚の婦女子が當然に解釋せねばならぬ、極めて緊要の問題であると思ふからです。

何を隱しませう。妾には七ケ年の久しきに亘り、絶えず愛心を捧げて居る情人が御座います。さるに、今日に至る迄、結婚の機會と云ふものは、ちらりとも兩人の間に姿を見せて呉れぬのであります。尤も妾が愛する其一靑年の同僚(共に役所の月給取)は、充分見込が付くと云つて、皆なそれ〲結婚をなさいました。けれども、今日其人達の着けて居る糸の出た外套や、汚れたカラー、それに屈托らしい顏色に氣が付きますと、時節を待つ事、假令二人は此儘で別れても、結婚をせぬ方が、幾ら二人の爲に幸福だか知れぬと考へるのです。

斯う申せばとて、妾の心は少しも薄情でない積り妾は一旦同棲の樂みを得た以上、確乎たる妻の義務に服すと云ふ事は、覺悟するより寧ろ喜んで居る所で御座いますなれども、今日才氣に滿ち、快活に見えて居る彼の人が、同僚の人達のやうに心配に疲れ、貧亡に責められた顏色をせねばならぬ場合が來たならば、氣の毒さにそれこそ妾は傷心して了ひませう。妾は愛する人の頸筋に、重い石臼を結付けたやうな氣がして、眞に良心の呵責に堪えぬ事でせう。

勿論妾の祖母は貧しい生活を承知の上で世帶を持ちました。けれども、全然事情が違つて居て其時代の人は一體人生に餘り多くを要求しませんでした。智識慾も向上心も、趣味と快樂を欲する念も、其時代の人には極めて薄いものでありました。これをば、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

今現代の婦女子が有する慾望と比べて相爭ふのは、全く無用の事であらうと存じます。それ故、目下の妾の考は、若し彼の人にして飽く迄も急速に家が持ちたいとならば、妾は關ひませぬ。誰とでも結婚なさいと云ふ積りです。されども又是非共妾と共にと云ふ決心が彼の人にあらば、妾は先づ毎週少しづゝでもお金を貯蓄し、生活の危險を避ける爲の準備をなさいと、かう熱心に告げたいので御座います。

　これに對し主筆イッペル夫人は何等の答解も判斷も與へてないが、唯其所論が不理でないと云ふ事丈は、備さに認めて居るのに違ひない。老孃の心事は寔に諒とするに足るのである。苟も生存が眞理である以上、そして、新結婚者の慾望に別に强大なるものがある以上、考への此所に到着するは寧ろ至當の順序であらう。記者は彼女の境遇に對して熱烈なる同情を禁ずる能はざると共に、併せて其見識の儼乎として犯し難きに敬服の外はない。彼女の意見はまゝならぬ浮世を悲觀せずして、却て其浮世に終局の勝利を贏ち得やうとするのである。自己の胸奥に勃々たる生活慾を適當に滿足せしめる迄は、假令如何程結婚の幸福を犧牲にし、男女同棲の快樂を幾マイル先へ退くるとも厭はずと云ふのは何たる男子的の氣象であらう。少くとも今日の中下層社會に群つて居る輕少の月給者、若くば勞働者男女の仲間にとつては、彼女は最も健全なる意見の代表者で、兼て彼等の爲に賴しい氣焔を吐いたものだと思ふ。

　彼女が未來の夫に對する提議は聊かも間然する所のない正當の意見で、固よりこれに薄情の名を負はす事は出來ぬ。縱し又萬一其心が薄情の閃きであつたにしても、その妙齡の花の顏、月の姿、娘時代の最も美しき樂しき時代を、未來の天國を夢るばかりに空しく風雨一過の間に送つて怨みとせざりし堅實なる精神は、優に其罪の全體をも償ふに餘りがある。彼女の心は眞底から活きたる愛に滿ちて居て、白梅の如き淸らかな操を持して居たのである。彼女の本心は、贅澤な貴族的の生活や、浮華虛榮の幻影に眩惑して、其結婚を拒

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

むのではない。彼女の唯一の熱望は地上生存者の權利である、人間らしい生活の慾望と理想とを家庭に於て發展したいと云ふ高尚な考へであつた。若し彼女の情人にして、此結果甘んじて他の女子と結婚するやうであつたならば、其人は結婚を單に好奇心の目でのみ見て居る人か、但しは量見の極めて淺薄な青年であつたらう。だが此樣な議論は第二として、かゝる老孃の運命の消息は直接至難なる生活問題に關聯して、切々の感動を强ひるものがあるのである。現代に於ける人間生活上の不安は、斯くの如くして無數の蒼生を不幸に淵に陷れ、特に淸き心の青年をして光輝ある理想を捨てしめ、或は天女にも似たる婦女子の愛情をば柔らかき其胸より奪去つて了ふ。凡そ人生の禍と稱するものにして、復た他にこれより大なる禍があるであらうか。

古來の聖賢智者は人生の逆境者に向つて、夙に制慾克己の德を敎へた。この制慾克己の主義は勿論有難い敎條であつて、人生が續いで絕えざる限りは、決して棄つる事の出來ぬ靈性の糧である。人生の悲哀にも是あるが爲に勝たれ、一身の不幸もこれが爲に忘れることが出來る。だが、若し其悲哀や不幸やが、自然の約束、自然の運命でなくして、單に人工の結果であつたらどうであらう。制慾克仁は貴重であつても、更に一方に於て其人工の弊所を亦人工的に刈除するの必要が起ると思ふ。

但し天國の實現は時の問題である。社會が人工に依て改造され、平等に幸福を配分する事の出來る時代が顯れる迄は、飽く迄も强い決心を以て臨機の處置を講せねばならぬ。我國でも一般女子の敎育か進んで來て、正當に慾望を發展し、正當の快樂を要求し、並びに正當の幸福を社會的に得たいと云ふ時代が來るならば、如何程に愛に固く戀に厚き兩人の間と雖も、さう輕々には結婚の出來ぬ事とならう、時代の來るを待てる老孃の數の增加するのは、忌むべきの現象であるが、それでも何の趣味もなく快樂もなく、日々向上の精神を減殺して、極めて拙に、哀れに、淋しき貧世帶を持つ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

よりは、其人の爲、且つは其子の爲に、どれ丈幸福であるかも知れぬ。

記者は老孃の心事の潔白なるを敬慕して、料らず右の言をなした。老孃は實に戀愛を解し、家庭の意義を知得せる婦人である。七年間待ち焦れたる愛人との結婚を拒める彼女は、果然愛の自由を尊重し、家庭の神聖を重視した一廉の賢婦であつた。

將來新家庭を造らんとする靑年男女は、共に牢固たる意志を以て、須らく此種の態度に出でん事を希望せざるを得ない。（渚山）

▲明治三十五年中我國に行はれたる結婚數＝三九五、〇五二に對して＝其離婚＝六五、七七六の大數なり。試に此原因を考察せよ。

（二〇）

エイプリル、フール

＝歐洲の奇風俗四月のいたづら＝

毎年四月の一日はエイプリル、フールと云つて、西洋では書入日になつて居る。此外に、二月十四日の『戀日』を始め、『白狀日』『ミカエルマス』などそれ〳〵特殊の面白味を持つた祭があるが、此等には孰れも宗敎的或は神話的の意味を含み、隨分復雜した故事來歷を持つたものが從つて多い。獨り其エイプリル、フールの日丈は、別段に六ケ敷い緣起もないやうに思はれる。

これを日譯すると、『四月のいたづら』或は『愚弄日』とでも云つて宜しいか、兎に角四月の一日は人を馬鹿にする日で、其馬鹿に仕方の巧な人が此日の勝利者になるのである。日本に『ボカン』と云つて、他人の名を呼んで急に負投げを喰はす單純ないたづらがあるが、エイプリル、フールはそれとは餘程規模も大きく、範圍も廣く、時としては慓輕が過ぎて罪深しと思はれるやうな戲れを仕掛ける事もある。假令へば、公園などの

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

高い樹木の絶頂に昇り、消魂しい大聲で喚き乍ら、頻りにハンケチを空中に振廻はして居る者がある故、近邊に散歩して居る紳士や婦人やは何事が起つたのかと、好奇心に驅られて馳附けて來る。樹上の男は固よりそれが手であるから、人が早や充分に集つたと見ると、「ハヽヽ、エイプリル、フール」と唯一言、如何にも痛快げに嗤笑して居ると云ふ始末。或は亦大川の橋の上や波止場のあたりで、物思はしげに佇立つて身投者と見せかけ、放心して居る通行人や、本職の巡査までに一杯喰はせるなどは、餘り性質の善くないもの。其他、使丁、言傳等で嘘を吐いて見たり、葉書や電報を利用して、念の入つたいづらを成効させるのも多い。一例を擧げると、今晩芝居見物茶屋△やへ急ぎ來れ、何々劇塲にて某とあるやうな電報を目的の人の處へかける事で、大抵の人は忽ち其巧妙な罠に掛けられて了ふ。

四月の一日は斯う云な物騒な日であるので、平生彼惡弄者の役に廻りさうな人は朝より晩迄注意に注意を加へ、謹愼に謹愼して、粗忽の擧動は大禁物にして居る。それも啻に男子社會ばかりでない。貴夫人の社會娘の社會、學生の社會、老人の社會、家庭の間、皆なそれ〴〵のいたづらには特色があり。かくて、如何にしていたづらを成効し、如何にしていたづらを看破すべき乎、と云ふ事を互に考へ合つて居るのである。それで、此日の名譽ある勝利者とならうとするには、図拔けて奇拔な趣向を案出するか、さらずば極めて平々凡々の事柄で、不用意の間に相手の心を惑はすが、最も策の得たるものであらう。

記者は此エイプリル、フールを太だ面白い風俗であると思ふ。云はゞ喜劇の粹を風俗化せしめたやうなもので、無邪氣な淡泊な樂天的の趣味が自ら此中に滿く々て居る。由來我國人の性格は悒鬱不活潑に流れ易く、妙に眞面目腐つて快活の氣象に缺如たるは爭はれぬ事實である。特に嚴格を標榜する舊式の家庭の如きは、喜劇の趣味と全く相容れず、年中澁面のかたくるしい生涯を送る事の外に、何等の優雅しい情致もないのが

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

普通であつた。幸にして、此種の風俗が我國の一部に移植えられて花が咲くならば、國民の性格の缺所をも融和する機會を得て、終には意外の効果を齎す事がないとも限らぬ。記者は人生の趣味と云ふ點からして、此樣な風俗を切に愛好するものである。

因に、此風俗の出所起原に就ては、昔からいろ〳〵の說を稱へる者があるらしい。ある人の話では、出所は慥に獨逸であるとの事。其理由に曰く、每年四月の頃の獨逸國は丁度我國の梅雨期の如く、霖雨の時節に入つて、人の心も亦始終沈滯陰欝を傾き易い。さればこそ、この無聊に對してエイプリル、フールは產れたのである。と、どうだかあてにはならぬ。

柳風

旦那寺くはせて置いてさてと云ひ
望まれて嫁輕少な聲を出し
又かへと車力孟母の荷をはこび
わるい癖をかしい度に人をぶち

個人改良と社會改造（二）

地上に天國を迎へる準備には、個人の改良と社會の改良、此二つの道に依るより外はない。現今個人主義者の先達として、天下の人から畏敬されて居るトルストイ伯は曾て其著書に說をなして、人間男女の關係が、殆んど姉妹の情の如き純粹のものにならなければ、到底根本的個人の改良は六ヶ敷いと迄云つて居る。

又他の一方の社會主義者の側では、現社會を打破して、新組織に改めさへすれば、天國は即座に實現するやうに說いて居る。これ偏に主義に忠なる結果の致す處で、砂糖は何處迄も甘く、山椒は何處迄辛かれと云ふ註文は、丁度こゝらへ應用する事が出來るのであらう。

唯私は此兩主義者の步調をして、今少しお互の顏を見合はすやうに進ましめたい。即ち、個人改良主義者は今少し政治や法律の力を信じて、機會さへあらば、それを利用する事に着眼し、これと同時に、社會主義者には克己、勤儉と云ふやうな、個人の道德を尊重して貰ひたいのである。

貧亡人は罪を犯す。それは生きん欲するが爲である。多少情の涙を持つて居る人で、衣食を纏ふて空腹に泣いて居る貧人の子を見たならば、其子の饑を癒やす爲なら監獄行をしてもよいと云ふ程の覺悟が起るであらう。個人改良主義者は一面又此邊の消息にも通ぜねばならぬ。又衣食足つて禮節を知るべき富有の紳士は如何。彼等は果して罪惡を犯さぬであらうか。いや犯さぬ所ではない、貧亡人よりは一層念の入つた罪を犯して居る。社會主義者はまた此邊の所にも常に考へを及ぼして居らねばならぬ。（佐治實然氏の演說より）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

誕生日の趣向

四月二日！生れて二十七回目の誕生日が今日私の手許へ廻つて來ました。そして初昇りした年から數へると正に十回目の誕生に相當するのです。

何と云ふ善い廻り合せでせう。幸に日曜日に當ります。私は此間中から妻と二人で計畫して居たのですが、どうも面白い趣向が湧いて來ませぬ。仕方がない故遠方の友人親籍へは繪葉書を送る事にしました。父上母上、並びに兄上姉上にも一枚宛別封で送つてあります。それは、今度新しく撮つた寫眞をワツトマンと云ふ洋紙に、ブロマイド流に燒付けさせたのです。御覽下さればわかりませうが、肖像の上に『上京十週年紀念……誕生日』と出て居るのは、能書自慢の私の親友が書いて呉れたのです。

少々お高くかゝつて、私等風情には此散財大痛事でありますが、平生に節儉するのはかう云ふ時の用意よと覺悟致し、丁度同樣の葉書を百枚ばかり寫させました。長い間音信の絶えて居る舊友の處へも、切めては私が東京にあつて、見事生存競爭に負けずに居ると云ふ事を知らせてやりたいと思ひ、古い住所錄を繰擴げで只今其表書の筆を走らせやうとして居る所です。

若し皆樣が近所にお出だつたらどれ程愉快であらうと思ふのですが、百五十里も離れて居てはどうする事も出來ませぬ。今夕は心ばかりの祝ひをする積りで、旣に一昨日別懇の友達八九名への招待狀を發しました。返事にはどれもこれも喜ばしくお受けをすると來て居りますが、私もこれで非常な滿足であります。中には小供を連れて來るのもあるし、主人が出征中で細君丈來るのもありませう。私は此等の人々の爲にどんな催しをしやうかと、これにも多少の頭を惱しました。固より御承知の痩世帶、食事の器具とても五人前よりないので、殘りの五人前は木戸氏に賴んで借りて來たやうな始末、それでも、妻は何だか早朝から料理の書物などを擴げ、眞白な前垂を大袈裟にも綱付けて、一廉の料理人になり濟したやうな顏付で居ります。私は

平生から食物の事には榮耀を云はず、無理も云はず、萬事妻の趣向と調理法に一任してあります故、今夕の献立其他の工夫に於ても、關渉は少しも致しませぬ。御馳走には何が抑も出る事やら、それを思ふと、私に取つても慥に晩方の樂みの一つになつて居りますが、仄に聞く處によると、何でも四種程の間に山海の珍味を一品食べさせるとの事です。菓子は此程京都から贈つてよこしたのがありますから、早速夫を利用する筈、外に夏蜜柑少々――食べるものは此位のものでして、食卓の上は誠に淋しいに違ひありませぬ。なれども、私は其樣な事に頓着しない。私は晩餐を差上げるから來て呉れとは云つたけれど、美食會を催すの、餓鬼飽食會を開くのと云ふ招待はしない積り故、御馳走がないからとて、聊か心に恥づる事はないと思ひ安心して居ます。とは云へ、此樣な理窟をこねるのも一つは財嚢に餘裕がないからの事。それで、黄金の光で飽かすと云ふよりは、趣味の力で客を引付けやうと云ふのが、私の家の今晩の作戰計畫です。お父さん、アルコールで人を倒すのは何でもないですが、この趣味と云ふ奴で客を醉はすのは隨分骨の折れるものですよ。

私は先程も△△子と相談した事ですが、今日は二人共大車輪になつて働かねばならぬ。そして『樂しかりし四月二日の晩餐會』と云ふ感じを、來た客の頭に永久にきざみ込まねばならぬ――まあ此樣な大理想(?)を二人は持つて居るのです。

仕合せな事には、柳川と云ふ子爵家の若樣が平圓盤蓄音器持参で、餘興の一部を助けると云つて呉れました。(但し、此人は世の中で用事役目と云ふ事のない人で、日々只遊んで暮して居る若樂人です。平圓盤も商賣人の持つ程澤山數を用意し、一朝事ある時分には、此機械を抱えの車に乘せて、早速目的の家へ驅附けると云ふ親切。)夫に、甥の友尼が學校の餘暇に覺えた尺八を吹奏して、一番僕の手並を見せてやると力んで居りますし、更に面白いのは隣家瀧氏のお婆さん、今年取つて七十四の老體なれど、元氣縱横、壯夫も及ばぬ

程の健かさ、此人亦是非共今宵の席に列りたいと云ふ。別に藝はなきも古三味線一挺持つて參られますとは同家の細君の話、洵に願つてもない程の好都合です。そこで、私は久々で例のエヴニング、ベルの獨唱でもやりませう。△△子も唱歌位ならば唄つて見ると云つて居ります。

斯樣に藝人が揃つて見れば、かはる／＼客の心を引付ける事、さして至難であるとは思はれぬ。尚ほ私は今少し眞面目な方面にも興味を求め、第一に過去十年間の浮沈榮枯、それに附隨した胸中の感想、事業の經路、將來の覺悟など、一々洩れなく、客の前にさらけ出して物語る考へです。其代り客にも面白い有益な打明話をして貰つて、互に親密の情の海、それも此際一層の深見へ棹して行きたいと云ふ覺悟で居ります。

今一つ席に興味を添える材料として、且つは今夕會合の紀念として、集つた人々に次のやうな事項を書いた紙を一枚づゝ配る積りです。

（一）余の最も愛好する

（イ）職　業　（ロ）住居所　（ハ）嗜　好

（ニ）書　籍　（ホ）花　木　（ヘ）色

（ト）季　節　（チ）時　間

（二）余の理想せる男子の資格

（三）余の理想せる女子の資格

（四）自己の長所並に短所

（五）唯一の愛すべきもの

（六）唯一の惡むべきもの

（七）最も愉快なるもの

（八）最も哀むべきもの

（九）理想の人物並に信仰せる題詞

（十）生涯の目的

申す迄もなく、これは各自の考へを修飾なく赤裸々に書入れて貰ふのです。そして、一々其場で讀上げやうと云ふのですが如何でせう。私は屹度面白からうと思ひます。

此外時間があつたら、俳句の運座もやりませう。即席繪葉書も作りませう。『雷檪』遊戯もやりませう。斯

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の如くして、可成的清興の多きを願ふと共に、一面各自の才を闘はし、慧を競ふの媒介ともなりたいと思ふのです。

いやうつかり止度もなく走り書きして、非常に長い手紙になりました。斯うして居る内にも、四時と云ふ時刻に餘程迫つて來ました。時間に正しい丈が切めてもの取得の私等の仲間は、もうそろ／＼集つて來るに相違ありません。何れ今夕の模樣は、次便にて悉しく御報導致すことに約束しまして、只今はこれにて擱筆します。寺島御老人、傘屋のお米婆さん、其他にも宜しく。

兩人より

御兩親樣

外御一同樣

▲朋友の厄難には速に行き其日祝には速かに祝へ▲父母、兄弟姉妹、友人同志、互に其誕生日を金剛簿に記し置き、其日めぐり來らば、又互に面白き趣向をこらして祝ひ合ふべし。

加賀の山中より

昨年私は白山へ登りました時、其邊の自然界を一瞥しましたが、今日再び登つて見ると何、昔しに變らぬ威嚴と温容とを以て、私を迎へて吳れました。從つて去年のやうに頭の中では自然を蹂躙せず、唯もう夢のやうな心地で、そが温かき懷に抱かれてしまつたので御座います。

殊に蝴蝶橋と申しまして、北陸の大河手取河の上流に懸かつて居るのが何よりの見物で御座います。白山が其の兩端から吐く清い二筋の水は、山靈のさゝやきを載せ、此の橋の少しばかり上流で互に合ひまして、其の美しい威ある顔面へ、くづるゝばかりの笑みを湛へて語りあつて來るのであります。

そして、それが幾十町となく深く／＼名工が彫琢になるやうな、奇しき形を止めて穿たれた、花崗岩の高い絶壁、断崖の間を、周圍の奇麗な面影をうつして、ずつと北へ／＼と流れ行くのであります。其の下流では幅幾百間もあり、ある時は多くの田も家も橋も道も一時に呑むの慨ある此の大河も、此處では幅三十尺位の岩間の深き／＼底を、我れ等罪多きものに覗かれぬやう、橋から幾百尺の下を、岩と老樹とに包まれて、遂に白帆を漂はす海へ流れ出るのであります。

其の削りなされた岩と岩との間に紅一點の百合の花、うつむいて下行く水と語つて居る濃紫の玉簪花、共にしほらしくも咲き匂ふて居るので御座います。

私は其の橋の上で大兄と飽くほど語りたいと思ひます。

夕からの雨で、向ふの家の軒から白銀の玉が轉びつゝ落ちるのを見ながら、吉野村の山宿にて

二　葉　生

堵山大兄へ

北海道の

田園生活

小百合

大方の雪は溶け去つて、東山と臼山との頂の峰合に友に後れた殘雪ちらり、霞が帯の樣に棚引き、峰と峰との谷合のアイヌ岩の側より昇る新粧の朝日の淡々しさ。圃園何萬町と云ふ大きな有珠の里が、鋤犂を手にする夥多の農夫を抱合み、海の樣なグレースに浴するのも恰度此の頃より始まるので——五年の痛手を心なき他郷に得た自分も、此の高大なるエタルニテーの呼吸に接し初めてより、唯もう譯もなく懐敷く、いそ〳〵と東園に鋤犂を手にする樣になつた。勿論其處には、五年前遠征した當時のやうな功名心もなければ、賤しい野心杯のあらう筈は固よりない。さればとてまさか從來の怠惰なる生活の報ひとして思ひ立つた働作でもない。何のことはない廣い春の野良の眞中、雲雀を包む霞の下に居る此の自分の耳に、細い〳〵天琴のソレの樣な美妙な音聲が、〝働け〳〵ソシテ其れが汝の運命であらう〟と樣に聽ゆるのである。何となく是が自分に天使の御聲でもあるかの樣に思はれ、ソシテ其れに逆らうならば、ドンナつらい悲しい運命に逢遇かも知れない。神の怒りに觸れて遠い〳〵花なき里……然りソレは鳥さへ棲まぬ冷たい北極の氷穴へでも引かれ行く樣に感せられ、是れが此の自分を如何にも鷹揚な野良の勞働者に導いた動機なのである。

見給へ、伊達村を横に東より西に延た網代町の稍東に據つた高み、其處に餘り大からぬ鳥居がある、恰度南向きに噴火江を望んで常磐木、吉野櫻、緋桃杯の枝の繁みの間を縫ふ樣に五六十遍も歩を移すならば、五六間四面程の祠に達するであらう。自分が住んで居る所は此の東に當つて居る所なので、毎朝祠から送り來る御鈴の音に目醒むるのである。此頃に入りては參詣集も繁くなり、征途に上れる伜の冥福を祈る村の老爺や、中年増の品よき婦人の階段に額くのを見ることもある。またほんのあどけなき振り分け髪の少女などが、西の入江に日の舂くのも知らず、少き腕を枕にすや〳〵と眠つて居る事もたまにはある。恰度自分が野良から歸り、町用に出掛け樣と祠前を通る時杯、足音に目醒めて驚き乍ら、慌たゞしく裏の菜種畑の畔を小走りに走つて行く。固よりスミレの花に蝶の止まつた淡牡丹色のリボンが、椽の上に落ちてあらう杯とは夢にも氣附かぬ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

祠の東側に青々とした松の木が一本、其根きはに徑がある。稍歩ゆむと一の門口に出る、約二十間も這入つたかと思ふと、山吹の生垣を廻した内庭――大きな林檎の木、梅の木何年か經たものか欝々としたオンコ、作り松、檜杯澤山生えてある庭園の中程に、之も亦餘程年經たらしい、稍棟あたりの朽かゝつたかと思はる玄關があるであらう。此處が自分の家なので。

見給へ東南に延々した廣々しい畑地、其處に青々とした生えがけの麥畑が見えるであらう。東北によつて夥多の桑の木が繁り處々北海道には珍しい程の林檎栗杯の大木が生えて居ると思ふと、家の裏手にあたつて、此の屋敷の重鎭かとも思はれる欝蒼たる古木が仰かるゝであらう。之が科の木なのである。北海道の太古期に屬する植物の面影を存して何となくゑみしの昔を忍ばせる。其根元は一面森々とした竹籔、槐の木杯があり、毎年今頃になると、流鳥の谷間より訪れて、中には妙なる鶯の音を耳にすることもある。恰度家族が一團となつて朝食の箸を取つて居る時分、裏座敷を通して其の初音の送られる折杯は、古稀の老人が故に座を直して左の耳をそば立てる。

鶯の初音床しき朝食かな

とでも歌はずには居られぬのである。

見給へ若しも、朝食が終へて鋤犁を東園に手にするならば、日は東山を離るゝこと十竿、野草の葉末々々に殘つて居た白露は散つて、野良の眞中を縫ふ様に流るゝ野川の蘆の間から騒々しくカラ／＼ツの聲が起り、ウコギの廻つた井戸の邊から年老ひた鷄の聲が聞える。と思ふと、四方に立て罩めた霞の屛風は徐かに納められて、稍青みかゝつた遠近の山々が現はれる。見給へ東山の峰續きからやゝ北西にかゝるところ、高く突き拔いた恰も埃及のフィングスの形をした赤山が見える、其フィングスの頭部とも云ふべき高き頂から白い／＼煤煙が噴出する。是が地方の名所の一つ、即ち臼山なのである。洞爺の湖――琵琶湖も斯うかと思はれる程に、風光に富んだ湖が恰度此の臼山の北の麓にあたるのである。湖畔の延長は十三里と聞いたが、自分等にはまだ大きい様に思はれる、中に七つの島があつて、大きいのが二つ、水は澄んで／＼中々深い。湖畔の邊りは立派な柱の木で、特に中島の欝蒼した姿は遠目ながらも好ましい成木である事が判る。ペンシルバニヤ邊には、木の根本を堀り明けて道路にして居る所があるらしいが此の湖の沿岸にも中にはさう云ふ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

のもあるだらう。此の湖畔にある、二三の別邸を初め、北海孤兒院其他の敷地は風光の最も好い所で、湖の彼方遙に秀麗なる蝦夷富士の姿が仰がる丶。道は壯瞥の瀧の下より三丁程も登れば其處に渡船場があつて、何時でも二十五錢で對岸なる向洞爺まで乘せて呉れる。向洞爺から虻田へぬける道があるが此處も中々美しい景色だ。

　　菜種積む船の行衛や霞の中、

　　　朝戸出にふる雨はれて山も湖も

　　　　ねざめ顔なる沖のしま／＼、

是れはいづれも昨年の秋此の邊を通つた時の作である。

　見給へ、若しも君が美しい湖邊の景色に恍惚として居る時、突然後背の方に汽笛が起つたら君は屹度振り向くであらう。白砂青松、江堤近く噴火灣の彼方、遙に、駒ケ岳の姿を映して、其處に漁り舟の眞帆片帆のゆられ行く所、黑煙濛らしてステームシップの迅走するを見るであらう。磯邊近く碇繋して居る空色の一本マスト、之は室蘭當地間毎日一回宛の定期船、いろは丸と云ふ總十トン計り積む小蒸汽船、主に旅客を載せるので中々狹い。ソレから今這入つて來た二本マストの黑船、之は渡島丸と云ふ函館航行の船なのである。函館までは荷物の積み卸しとも約一晝夜か丶るので、膽洋丸と云ふ船と交代に出這りする。函館までは一圓拂へば乘せる。自分は毎日朝早くより起き出て、運動がてらに必らず此の江濱を訪ふのであるが、海邊の春の曉、又一入の妙致を添える。

　　遠ふ沖に島かと見れば左はなうて

　　　うき雲しらむ春の曉、

若しも君が此の海邊の人となつて春の日の一日を送くるであらうならば、君はキット造化の不偏なる溫かき恩澤に咽び、ソシテ必らず君は感謝の人となるに相違ない。

　自分は先年他郷に流寓して居つた當時、志賀氏の地理學講演を聞いたことがあるが、其中に斯う云ふことを言つて居た。「地形的境遇が人心に影響すること決して尠少でない。現に太平洋沿岸に接む南日本の人と、日本海に面して居る北陸地方の人との心情はドーシテモ異つて居る。南日本の人は地形のソレの如く如何にも溫かで情深い、從つて雅致に富んで居るが、北陸地方の人は何となく蕭颯の氣を帶び、何處やらに寂しい血が流れて居る……と、誠にソウデある。自分は更に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

思ふ。此の地形的關係は心理敎育の二者に渉つて、敎育家の決して等閑に附すべからざる事柄である。

然し是等は餘り茲で言ふべきでない。唯一つ自分の感想を叙して世人に望んで置きたい事がある。世の知に倦んだ人、或は心の痛手に堪え難き人は、是非一度は此の有珠の里を訪づれて貰ひたいことである。世人は一概に蝦夷とのみ言ふけれども、蝦夷ヶ島の風致は又格別なもので、其眞趣は實際此の蝦夷ヶ島の温かな懷に抱かれた人でなければ解からぬ。噴火江滸の眺望、有珠灣の舟遊び、壯瞥瀧の下の紅葉、盤溪温泉の釣、洞爺湖畔の風光いづれも慰藉の友とするに不足はない。殊に春から秋へかけて、廣い／＼有珠——伊達村の野良生活は單調な樣であつて然も其の厭かぬ趣は又一入なものである。自分は此の温かい春の懷に抱かれつゝ鋤犂を手にして居るのであるが、廣い野良の麥畑や菜種畑をさわ／＼と吹き來る春の風が、働いて居る此の自分の熱い胸に入る時の心地よさ……ア、實に得も言はれぬのである。

病室の訪れ

友達や知人の病氣を見舞ふ時の心得を一寸述べませう。病氣見舞は既に其性質に於て善事故、何も左程大した心掛も要らぬやうですが、專門に從事した西洋の人の實驗錄などを見ると、なか／＼さうではないらしい。第一に見舞人には心理學の應用が必要です。見舞方の上手下手一つで、病人の高まつた神經を和らげ更に新しい希望の光を其沈んだ胸に植付ける事も出來れば、憂ひに憂ひの上塗をして、なげなしの元氣をさへも全く奪取つて了ふと云ふやうな結果にならぬとも限らない。

病室に入らうとする時は襖、障子の開閉に氣を付け、足の運びを出來る丈靜かにすること。併し其「靜か」も故意に作つたぬき足さし足と云ふ風の怪しのでは却て惡い。病人に忌しい感情を起させる原因となります。

病人の顏が見えたら看護婦などに言葉を交さず、直樣寢床の傍に行つて、平生の調子で話しかけるが宜し

い。話の題目は可成的罪のない面白い世間話で、それが爲に氣を引立たせるやうな、六ケ敷い事や、觸感的の話は斷じて見合はすこと。と云つて、また餘りに不得要領でもならぬ。一旦見舞ひをした以上は、何か病人の心に新しい健全の思想を少しばかり吹込み、軈て別れて歸つた後も、病人はそれを幾度となく繰返して、樂しい〳〵空想の土臺にする、と云ふやうな成効を收めねばならぬ。其樣な思想こそ、眞に病人に取つては、曉天の星の如く、極めて尊い光明となるものでありませう。

着物には無論派出なぴか〳〵ものを控えたい。それは得て病人の思想を悲觀的に傾けさせる媒介となるもの。總て風采容姿は淸楚にして快活、言葉にも調子にも、顏色にも態度にも、此二つの表情を忘れぬ樣にしたいものです。かくて、病人は其胸底に深く「此世にはまだ生きる價値がある」と云ふ觀念を印象するでせう。

若し又其淸い同情の心から、何か贈物でもしたいとならば、夫には花の鉢植が一番宜しいと思ひます。そして其種類の撰び方は、一に香のないもの、二に愛らしい色で長く保つ花、三に餘り人の手を煩はさずに濟む花――この三つです。

訪問は無論短時間の事「さよなら」を云つたら直ぐに病室を後になさい。未練がましく、悲しさうに、歸りかけてから容易に歸らず、無意味に愚圖々々して居るのは、日本の人の癖、特に婦人にはよくそれを見掛けます。これは病人に煩はしい思ひを增させる種で、折角の訪問が何の効能もない事となりませう。

序に病人は家庭に置かずして、公の病院に收容せねばならぬものと私は思つて居ます。一月二月と長い病ひをして居る人のある家は、實際幸福の半以上を剝奪られたのと同じ事です。室内は暗憺として陰氣に籠り、家人は皆看護に飽きて、不愉快な顏をして居る。病人自身も段々と遠慮をする事を覺えて肝腎の病はます〳〵重くなる。既に家内が斯うであれば、固より友達等は訪れて來ぬ。又來たとて策の施しやうもない始末。この欠陷を補ふものは實に病院です。唯一つ好都合でない事は金錢の問題で、如何とも仕方がない。只我等が切に望む處は、公衆の爲に大きな公園が市の中央に出來るが如く、金錢を出さずに濟むやうな病院が早く社會に顯はれて欲しいと思ふのです。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

筆ついで　浩山

▲春や愛すべし

時候も頓に春めいて、彼岸櫻の笑顔を見るのも、たゝ二三日の内に過ぎぬ。公園や銀座通を散歩して見ると、日曜日でもないのに綺麗に着飾つた奥様や島田髷、リボンの華美な女學生、嬉しさうな二人連、愉快らしい少年少女、唯ぞろ〳〵と裳の裾稍重げに歩いて居る。春風はゆるやかに面を吹いて、親切な人の心のやうに暖い日光。眠りを覺した木々の若芽。鳥の姿。水の色、かゝる景物を客觀的に見れば、此地上は又一個の天國である。自然は今春と云ふ最も美しい衣を着けて天地を飾り、人は其中に抱かれて、平和と美とに醉つて居る。これをしも天國と云はずば、終に天國は死より外にないであらう。あゝ春や大に愛すべし。勤勉者の心は同時にまた快樂主義者の心である。すべての人は此麗しき春の美容に醉ふて、寂れたる生命の洗濯をせねばならぬ。

▲時機を待つ事　千葉、商店の青二才と云へる方にお答へす。時機をお待ちになるのがよろしいと思ふ。假令一時は私生兒として届けられても、後日機會を得た時、父が民法の規定に依りて然公と認定さへすれば、差支へありますまい。

▲芦信女へ　兎も角御住所を敎へて下さい。

▲料理の質問　は緑亭主人の擔當で何にてもお答へします。尙ほ家庭上の御相談には記者は及ぶ丈盡力します。

▲岩代愛讀者へ　草花の事は次號で答へます。

▲農舍園主人へ　貴作の俳句は面白く拜見しました。

▲『日本の家庭』　新しく生れた雜誌です。思切て紙質をよくし、色刷にして寫眞版木版數百個餘も這入つて居ます。日本にはまだ貴族的の家庭雜誌がない故、この需要を满たすには屈强のものでせう。

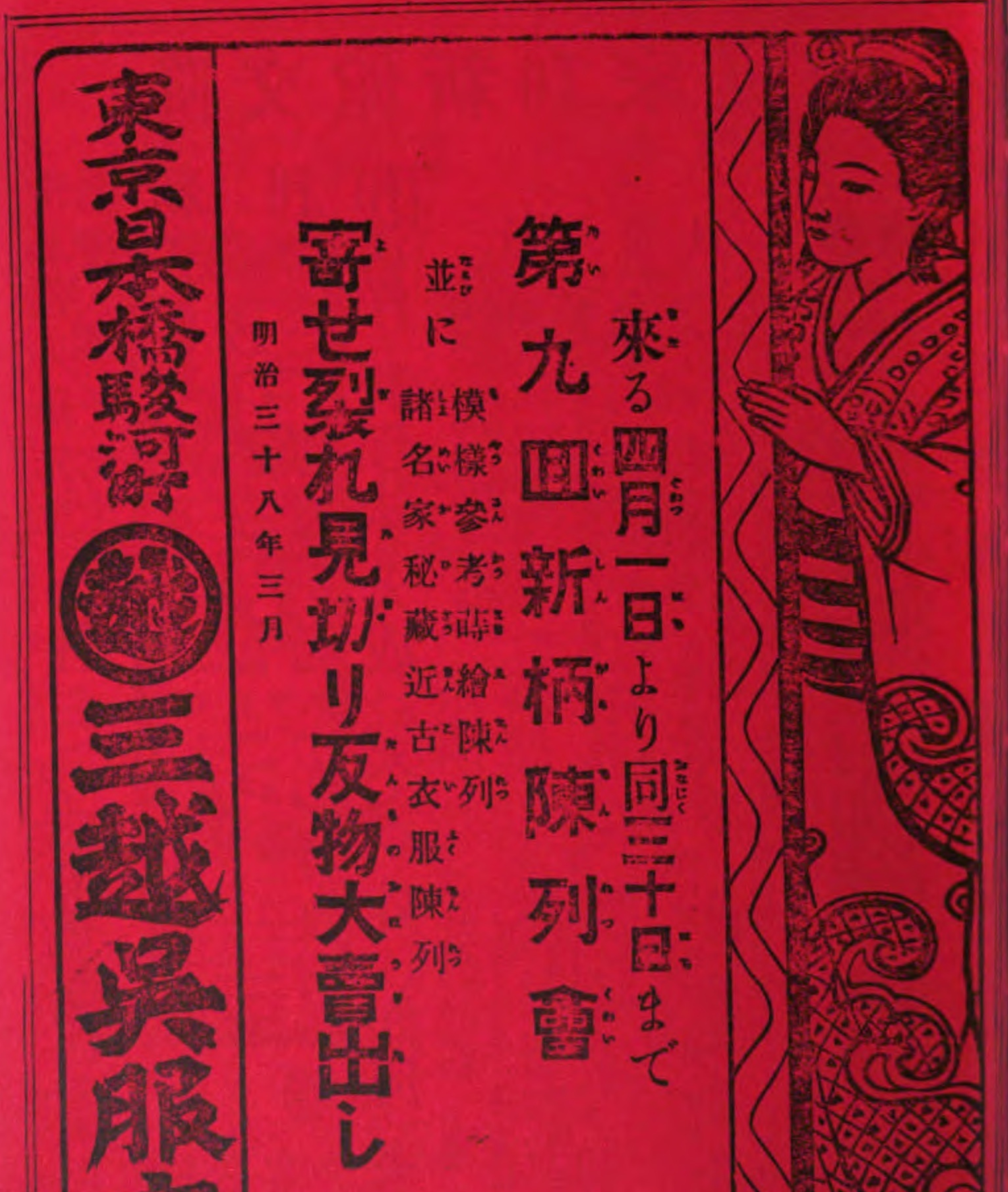
▲交詢欄　當分左の形式を用ひます。

〰〰〰〰〰〰

▲安形氏の希望　本郷の安形恒夫氏の次の如き眞摯なる書面を記者に寄せられました。――小生は温き家庭へ家族的同居をさして戴きたいのです。小生は醫學修業中の者で、基督教信者で御座います。社會主義者の家庭ならば一層うれしく感じます。(元町二、四六淺井方)

▲VK生の希望　近江の人。家庭雜誌の讀者の中で、理想的婚約を取結ばうと云ふ御婦人はなからうか、と云ふ希望です。無論財產、地位などは問ふ處にあらず相互の性質、中等の敎育、體格の健全、並に容姿の醜からぬこと、これが結婚の要件。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

隆文館新刊家庭書

井上善兵衛先生
嘉悦孝子先生　合著

新刊

割烹新書

（下卷近刊）

上卷

總クロース製本金文學入頗美裝
定價金八十錢
小包料金十錢

和漢洋の料理法を大成したる者本書の外になし矣如何なる家庭にも一本を要す

上卷要目

總論
割烹の精神　割烹と衛生
臺所の構造　割烹と經濟
割烹の時及び器具の清潔
食品及び器具
食品の撰擇　植物性食品　動物性食品　食品鑑別法　著色料の注意
調味食品　食鹽　醤油　味噌　酢　砂糖　味淋鰹節　昆布　乾瓢　椎茸
煮出し類　鰹節煮出しの製法　昆布及び乾瓢煮出しの製法　椎茸煮出しの製法　煮切りの製法　灰汁引き砂糖の製法　灰汁引き製鹽の製法
食品の貯藏　青菜貯藏法　菌類貯藏法　果實類貯藏法
器具に對する注意　金屬器　陶磁器　硝子器　木器製法器具の種類
庖丁法及び食品使用法
食品の切り方　鳥類の切り方　魚類の切り方　貝類・軟體類・甲殼類の切り方　野菜の切り方
食品使用法　鳥類　魚類　貝類・軟體類・甲殼類豆類　蔬菜類　根菜類　葉莖類　及び瓜蓏類　海藻類　菌類　香辛料類
家庭料理
春の部　汁・汲び物類　膾・刺し身類　齏へ物類　浸し物類　煮物類蒸し物類　燒き物類　揚げ物類　田樂類
夏の部（仝上）　秋の部（仝上）
冬の部（仝上）

棚橋絢子先生
嘉悦孝子先生　共著
新桃日用家事讀本　上下二卷定價各金六十錢郵税揃十錢

小兒科醫小澤鹿十郎先生著
小兒のそだて方、（再版）全一冊定價金三十五錢郵税金四錢

成女學校割烹部編纂料理節用
家庭暦（再版）全一冊定價金三[illegible]郵税金六錢

發兌元　東京京橋新尾張町一丁目（電話新橋二五八六番）　合資會社　隆文館

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

腦病 靜靖丸 頭痛

腦力を明快にし腦病神經病を全治す

腦病 にて常に頭重く、記憶弱力く、忍耐力薄く、氣鬱ぎ、不眠、頭痛を煩ふ人

神經 症にて僅の事を苦慮し、常に動悸、息ぎれを感じ怒り易く、悲み易く、心弱き人

逆上 症にて常に顔紅く、頭痛、眩暈し、耳鳴目かすみ、肩凝り背重く、便通少なき人

頭痛 症にて學生の常に煩ふ勉學性頭痛、感冒、徹夜、苦慮等より發する者其他總ての頭痛及ひ頭痛持の人

不眠 神經家又は老人等の夜分安眠を得ざる人、亦は苦慮、悲痛、等にて眠むられざる人

其他常に腦を勞する人及神經家亦は大酒家、肥滿家は持藥として此藥を服用せらるべし腦力を强健にし精神を快活ならしめ、中風、卒中風を豫防する希有の偉効あり、

藥價 〔二日分弱金拾錢 廿二日分（常備用）金壹圓 十日分金五拾錢
六日分金三拾錢 四日分金貳拾錢〕

本舖 東京市日本橋區 藥研堀町 藥劑師 高木與八郎

逆上を引下げ睡眠を催し頭痛を即治す

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

慈善券

ライオン歯磨小袋入に添付せり詳細は
實物に就き御承知あらんことを乞ふ

北米セントルイス萬國博覽會

名譽銀牌受領

發賣元　東京　小林富次郎

發兌元　大阪　小林支店

製粉　赤罐入　發賣

意匠斬新且つ優美なる彩色罐入にして頗る携帶に便なり能く香氣の發散を防止し終に至る迄本品獨有の佳香を保つを得べし遠征の士其他旅行用に適せり

定價一箇拾貳錢

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA